

SNS における自己主張性

1240438 小林風音

指導教員 上村浩

研究背景

近年、インターネット環境の普及に伴い、SNS の利用が急速に広がっている。SNS の利用率が増加することにより、その利用法に加え、自己主張の仕方も多様化してきている。SNS において、ポジティブな内容の情報を発信する人もいれば、ネガティブな内容（誹謗中傷やフェイクなど）の情報を発信する人もいる。

研究目的

本研究は、SNS において迷惑動画などの社会的迷惑行為を行う理由について、「自己主張性」と「規範」に着目し、自己主張が規範に基づいて表現されるかを検証することを目的とした。本研究では、自己主張性が強く、かつ人間関係が狭い人は、ネガティブな同調を表現する傾向にあるという仮説を立てた。

調査方法

全 13 問で構成された質問を、大学生 42 人を対象にアンケート調査を行った。SNS の投稿頻度、学内と学外でいつも同じ人達と行動を共にしているか否か、他人（知人ではない）または友人の炎上動画に対してリアクションをしているか否かで、自己主張が規範に基づいて表現されるのかを検証する。また、本研究では、自己主張性の強さを SNS における投稿頻度で計測し、人間関係の広さについてはいつも同じ人と行動を共にしているか否かで計測する。

調査結果

SNS において投稿頻度が高い、つまり自己主張性が強く、かつ人間関係が狭い人は、そうでない人よりも投稿においてネガティブな同調を表現する傾向にあると示された。

考察・結論

SNS の投稿頻度と人間関係の広さによって、「自己主張性」と「規範」には関係があることが示された。また自己主張がその人が有している規範に基づいて規定されるということが示された。